



## 第2回小中一貫教育推進協議会オンライン開催（2月12日）

新型コロナの影響によりオンライン開催となりました。各ワーキンググループからの発表の後、関西学院大学佐藤真教授の総括助言及び講義をいただきました。

### ①『あこがれと非日常』

普段の生活がどんなにたらくても、学校に来るとわくわくする。閉塞感が漂っていても、学校に行くと非日常が味わえる。あこがれを持つこと、夢を持つことを今まで以上に大事にしたい。

### ②子どもの事実を見ていこう

データが良くても、「そう思わない」と回答している子ども一人一人を見ていこう。

### ③言語活動の「見える化」を

書き合う、「比較・分類・関連付け」「類推」などの思考法を活用し、「考えるとはどういうことか」を徹底して扱う。

### ④タブレット端末で「個別最適化」と「協働的な学び」の往還を（GIGA スクール構想）

タブレットで孤立化した学びにさせない。学校ならではの「協働的な学習」にタブレットを活用しながら参加させる。

推進協議会でご報告いただいた改善策、学識経験者の皆様の助言、佐藤教授の指導助言を、次年度の取組に活かしていきます。4月から豊岡こうのとりのプラン第2期2年目の取組「授業でつながる小中一貫教育」が始まります。



《オンライン会議》↑

## 第2回豊岡市不登校等対策委員会(2月15日)

今年度最終の不登校等対策委員会が開催されました。

中学校では、生徒の状態に応じた柔軟な対応を行い、欠席日数が減少してきた事例や、中学入学後の1年生が小学校6年生に対してアドバイスし、不安の解消を図る取組が紹介されました。

小学校では、アセスの結果を基に、自己肯定感を高める取組を実践し、改善した事例が紹介されました。また、子どもへの指導の手立てや具体的な関わり方なども引き継ぎ、不登校の未然防止に効果があった事例も報告されました。

小児科医の赤松亮先生からは、コロナ禍での子どものストレスに具体的に 대응することが大事だとの指導助言をいただきました。正しく恐れるために、コロナそのものを教えること、様々な情報に振り回されているので、いったん立ち止まって整理して子どもに考えさせることなどのご示唆をいただきました。